

みやぎDUAL-COREハイスクール・ネットワーク

目的

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を融合させ、経済的な活性化と社会的な課題解決を目指す新たな社会Society5.0の実現とその社会を支える人材育成のために、公的サービスの提供のための手段としてICTのもつ機能を最大限活用し、都市部への人的資源の一極集中の是正と地方創生という大きな課題に対して教育分野のアプローチ・研究と位置づけ、本県では仙台圏と郡部の教育機会の格差の解消を目指し、遠隔授業の在り方についての調査研究と郡部の高等学校における地域探究を柱とするカリキュラムについて調査研究し、地域に貢献する人材を育成する。

現状

●社会的背景

- ・郡部から仙台圏への人口流出
⇒仙台圏の一極集中
- ・15歳人口の減少
⇒郡部の高等学校の定員割れ

●小規模校の課題

- ・生徒のニーズに応える多様な授業の設置が難しい。
- ・地理歴史や理科ではすべての科目の専門性の高い教員が配置できない。

1. 遠隔事業に関する取組の概要

- 配信側と受信側の教員の連携により、生徒の学習理解度に応じた習熟度別授業
- 理科や地理歴史のような専門性の高い科目の授業
- 配信側の高校の教育課程において特長のある教科・科目の授業（芸術や専門科目）
- 生徒の多様な進路希望に対応する教科・科目の授業
- 地域探究の方法を学ぶ基盤科目として位置づけ、教育課程を共通化する地理総合

2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

- 受信校の各高等学校がこれまで地域と連携して実施してきた取組を進化させ、地域をフィールドにした探究活動と地域の課題解決策を提案する総合的な探究の時間のプログラムの構築するために、自治体、地元商工会、大学とコンソーシアムを設置する。
- 地域をフィールドにした探究活動を推進するために、東北学院大学及び宮城学院女子大学と連携する。

3. ネットワークを構成する学校

- 配信校 宮城県宮城野高等学校
(コア校) 宮城県田尻さくら高等学校
宮城県貞山高等学校
県内公立高校で唯一の美術科を有する全日制高校
商業や福祉等、多様な科目の授業を展開する定時制高校
多様な学校設定教科・科目の授業を展開する定時制高校
- 受信校 宮城県岩ヶ崎高等学校
宮城県中新田高等学校
宮城県柴田農林高等学校川崎校
栗駒山麓の栗原市にある全日制高校
音楽の町、加美町にある全日制高校
農業科目も学べる川崎町にある全日制高校（分校）

みやぎDUAL-COREハイスクールネットワーク

育成を目指す資質・能力

- 地域の特長と課題を見出し、特長を生かした課題解決を探究することで育成される「分析する力」と「構想する力」
- 他校との交流や情報共有、成果発表に取り組むことで育成される自分たちの地域を「発信する力」と「客観化する力」
- 地域と関わる中で積極的に「社会参画する力」

主なアウトプット(活動目標)

活動指標①(カッコ内が目標)

次年度の遠隔授業(選択科目)の履修希望者数

令和2年度	0	令和3年度	7(10)
令和4年度	73(15)	令和5年度	(200)

活動指標②(カッコ内が目標)

コンソーシアム構成機関の出前授業の回数

令和2年度	0	令和3年度	2(2)
令和4年度	62(8)	令和5年度	(70)

主なアウトカム(成果目標)

成果目標①(カッコ内が目標)

「授業が分かる」生徒の割合(%)

令和2年度	52.8	令和3年度	54.3(55)
令和4年度	62.5(60)	令和5年度	(65)

成果目標②(カッコ内が目標)

高校所在地等の公務員になった卒業生の人数

令和2年度	5	令和3年度	7(7)
令和4年度	4(8)	令和5年度	(10)

委託期間終了後の見通し

- 令和5年9月から、次期宮城県学習情報ネットワーク(みやぎSWAN)の運用開始を目指し、県としてネットワークのさらなる強化を図る。
- 本事業で構築したネットワークを活用し、配信科目の増加や参加校の増加を推進するほか、遠隔授業を必要とする高等学校が利用できるよう全県的な運用を目指す。